

標本に基づく鹿児島県本土初記録のウスバカマキリ

是枝伶旺

〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

はじめに

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758) はカマキリ科カマキリ属に属するカマキリである (中峰, 2015; 塚田, 2016; 大島・瑤寺, 2019). 本種は国内において北海道から八重山諸島まで広く分布するが (大島・瑤寺, 2019), 鹿児島県においては島嶼域からの記録のみが知られる (塚田, 2016; 大島・瑤寺, 2019).

2019年11月13日に, ウスバカマキリに同定されるカマキリが鹿児島県南九州市頰娃町から採集された. 本種は鹿児島県のレッドデータブックで情報不足とされている (塚田, 2016) ことから, 本種の分布情報の蓄積は本種の保護対策の検討などに際して有益であり, この個体は本種の鹿児島県本土における初記録となるためここに報告する.

材料と方法

頭部前端から腹部後端までの直線距離を体長 (TL) として計測し, 計測はノギスを用いて 0.1 mm まで行った. ウスバカマキリの生鮮時の体色の記載は, 撮影された鹿児島県南九州市産の 1 標本 (KAUM-EN 1) のカラー写真に基づく. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されている.

結果と考察

Mantis religiosa (Linnaeus, 1758)

ウスバカマキリ (Fig. 1.)

標本 KAUM-EN 1, 体長 65.1 mm, 鹿児島県南九州市頰娃町, 2019年11月13日, 徒手, 谷川遼.

外見的特徴 腹部後端 (尾端) は平坦で縦扁し, 後方に伸びる 1 対の小突起をもつ. 体色は緑色を呈する. 羽を 2 対 4 枚もつ. 前翅は黄緑で後端にむかい淡くなるが, 前端部のみ褐色. 後翅は黄緑で後端に向かい淡くなるが, 先端部のみ褐色. 前足基節内側の付け根には黒い 1 つの楕円斑のなかに黄褐色の 1 つの円斑をもち, 上記の斑から転節直前までに黄色い小斑を複数もつ. 腿節内側には中ほどに黄色い円斑を 1 つもつ.

分布 ウスバカマキリは台湾, 東南アジア, 旧北区に広く分布し (中峰, 2015), 国内においては北海道, 本州, 四国, 九州, 大隅諸島 (屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (徳之島, 沖永良部島), 沖縄諸島 (伊江島, 伊平屋島, 沖縄島, 粟国島, 久米島), 宮古諸島 (宮古島), 八重山諸島 (池間島, 多良間島, 石垣島, 西表島, 黒島, 波照間島, 与那国島) からの記録がある (塚田, 2016; 大島・瑤寺, 2019).

備考 記載標本は, 前足基節基部の内側には黒い 1 つの楕円斑のなかに黄褐色の 1 つの円斑を備えるリング状の紋をもち, 前足腿節内側には中ほどに黄色い円斑を 1 つもつことなどの外見的特徴が塚田 (2016) や中峰 (2015) の示すウスバカマキリの外見的特徴に一致し, ウスバカマキリに同定された. 記載標本は伸長した羽をもつことから成虫であると考えられ, 腹部末端は平らで 1 対の小さな突起をもつことが中峰 (2015) における

Koreeda, R. 2020. First specimen-based record of *Mantis religiosa* from the Kagoshima mainland, southern Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 567–568.

✉ Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: k4920583@kadai.jp).

Published online: 29 April 2020

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-101.pdf

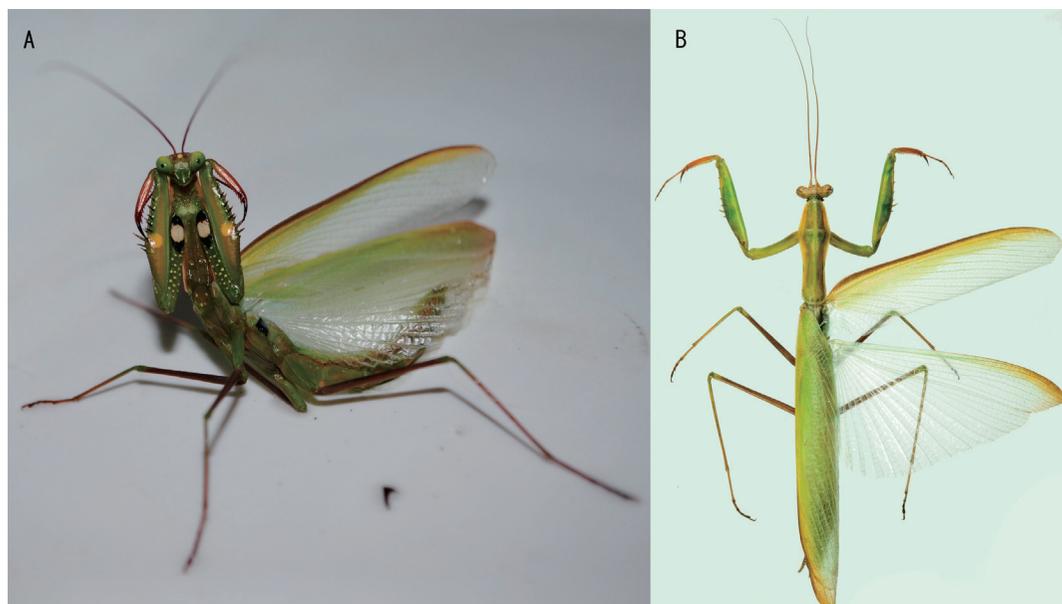


Fig. 1. Images of *Mantis religiosa* from the Kagoshima mainland, southern Kyushu, Japan (KAUM-EN 1, 65.1 mm TL, adult male). A: live individual (2 days after collection); B: specimen.

カマキリのオスの特徴に一致することから、記載標本は成虫のオスであると考えられる。

記載標本は夜間に著者らが魚類相調査を行っていた際、ヘッドライトの明かりに誘引された。採集地は海から 50 m ほどの舗装された駐車場だが、周辺には本種の生息地と考えられる照葉樹からなる林と草本植物からなる草原がある。

ウスバカマキリの生息地は分布の項で述べたとおりである。本種の記録は九州からも存在するが（中峰，2015；塚田，2016），鹿児島県内における本種の記録は島嶼域に限られ（塚田，2016；大島・瑤寺，2019），鹿児島県本土における本種の確かな記録は存在しない（塚田，2016）。本報で記載された標本により，本種の鹿児島県本土における分布が確かなものとなった。したがって，鹿児島県南九州市産の標本（KAUM-EN 1）は，鹿児島県本土におけるウスバカマキリの標本に基づく確かな初記録である。本種は国内において北海道から八重山諸島まで広く分布するが（中峰，2015；塚田，2016；大島・瑤寺，2019），環境省レッドリストにおいて情報不足とされており（環境省，2019），鹿児島県のレッドデータブックにおいても情報不足とされている（塚田，2016）。本県に

おける本種の生息状況は不明であるため，生息実態について更なる調査が求められる。

■ 謝辞

元鹿児島大学水産学部の谷川 遼氏には標本を採集していただいた。鹿児島大学総合研究博物館の大西聡子氏には，標本登録作業においてご協力いただいた。鹿児島大学水産学部のアクアリウムサークル・クロミスの古橋龍星氏と市川港大氏，鹿児島大学生物研究会の皆川暁慶氏と森 優真氏には本種の同定に際し有益な情報をいただいた。虫央堂の塚田拓氏には本種の分布記録および同定に関して有益な情報をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。

■ 引用文献

- 環境省. 2019. 環境省レッドリスト：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf> (2019年11月22日閲覧).
- 中峰 空 (編). 2015. ひょうごのかまきり. Pp. 1-44. NPO 法人 こどもとむしの会, 兵庫県.
- 大島千幸・瑤寺 裕. 2019. 沖縄県伊江島におけるカマキリ目 5 種の初記録. *Fauna Ryukyuana*. 51: 1-7.
- 塚田 拓. 2016. ウスバカマキリ. 鹿児島県環境生活部環境保護課 (編). 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック—. P. 146. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.